



▲夏休みを迎え、涼風を求めて西中プールへ……水泳で体をきたえ、つよい子になるぞ！（プールを開放）

夏本番！！



▶交差点での正しい乗り方を学習

夏休みを前にして子どもたちに自転車の安全で正しい乗り方を徹底させようと、西原小学校（松田正精校長、当間嗣貞PTA会長、児童一千六十名）では、七月十九日午前九時から全校児童を校庭に集め、炎天下で自転車の安全な乗り方指導を行った。これは、同校の児童が一年から六年までに約三百台の自転車を所有しており、普及率三〇％になっていることから交通安全ルールの基本を指導した。最後に児童代表によって安全運転の宣誓が行われこの日の安全指導を終えた。

寄付お礼

七月四日、浦添市字牧港二八九番地の比嘉貞雄さんから「私の八十五歳の生年祝に孫たちから贈られたお金を社会福祉のために役立てて下さい。」と町社協に七万円の寄付がありました。この紙面をかりて比嘉さんのご厚意に感謝申し上げます。

町社協評議会終わる

七月十四日午後二時、町社会福祉センターで昭和五十八年度町社会福祉協議会評議員会が開かれ、昭和五十七年度町社会福祉協議会事業実績報告並びに同一般会計決算の承認、五十七年町社会福祉センター特別会計決算の承認などが行われた。また、七月一日付で新評議員に平安恒政、小川良夫、翁長正昌、呉屋厚雄、花城朝男、呉屋良一、山畑清光、砂川徳次、島袋宗盛、伊波善英、小橋川正世、城間信三、大城栄一、安座間喜盛、呉屋幸夫、上里恵光、呉屋賀真、長嶺由光、金城澄、城間千代子、宮平春子、浦崎ミヨ、比嘉千代、宮平清子の各氏が委嘱された。



▶山川經由西原線



▶末吉經由西原線

銀バス 西原線が山川經由と末吉經由に 儀保から安里までの間が変更

那覇交通株式会社銀バスでは、乗客の利便と経営の合理化を図るため西原線の路線再編を検討し、十八日付で認可され、七月十六日から路線が儀保から安里までの間、

線再編を申請していたが、六月二日付で認可され、七月十六日から路線が儀保から安里までの間、山川經由西原線（従来通りの路線、平日三十回）と末吉經由西原線（古島インターから環状二号線を通って安里へ、平日三十三回）の二つのコースで運行されることになりました。平日は、約十五分間隔で末吉經由と山川經由が交互に運行されています。会社側は、この路線変更により踏み切った理由として①末吉經由の方

が十五分～二十分間隔で那覇に着いて便利である②高校の校区が変わり、西原から首里高校に通学でなくなった③琉大移転により大学生の数が減った④経営合理化のため牧志經由末吉線を廃止し末吉經由西原線に統合させるなどを上げています。

ちなみに運行回数は、従来と同じであります。

両線ともバスの入口のところに末吉經由は赤で「末吉」と、山川經由は青で「山川」と書いてあります。銀バス西原線をご利用なされる場合は、乗る前に一度確かめてからお乗り下さい。

尚、西原線の儀保～安里間の運行系統図は次の通りです。我謝～儀保、安里～那覇バスターミナルは従来通り。

●西原線運行系統図（新）（儀保から安里まで）



自転車の安全な乗り方を指導

夏休みを前にして子どもたちに自転車の安全で正しい乗り方を徹底させようと、西原小学校（松田正精校長、当間嗣貞PTA会長、児童一千六十名）では、七月十九日午前九時から全校児童を校庭に集め、炎天下で自転車の安全な乗り方指導を行った。これは、同校の児童が一年から六年までに約三百台の自転車を所有しており、普及率三〇％になっていることから交通安全ルールの基本を指導した。最後に児童代表によって安全運転の宣誓が行われこの日の安全指導を終えた。

昭和五十八年度 町青少年協定会終わる

青少年の心身共に健全な成長を図ろうと七月一日午後三時から町役場会議室で昭和五十八年度町青少年健全育成協議会（写真）が開催され、関係者多数が出席して行われた。総会では、昭和五十七年度事業報告並びに決算報告の承認、同監査報告、昭和五十八年度事業計画並びに予算、会則の一部改正が審議され原案通り承認された。会則は、会の構成メンバーに「スポーツ少年団」が新たに加えられ、副会長二名を三名に改めた。新年度事業では、七月～八月に啓蒙宣伝活動、昼間巡回指導、夜間補導、十一月に住民大会、十二



夏休み期間中の児童生徒の水難事故対策には万全を期しましょう。

いに嘆じ、ついに野服を脱ぎて竜衣を着し、首里に至りて大位をふむ。そして中山、万世王統の基を開く。後、其の岸を名づけて脱衣岩（俗に其の岩を呼びて脱御衣瀬と曰ふ）と曰ふ。」

このように「インサージャー」の由来について詳しく述べてある。つまりインスとは衣のことで、その干瀬で金丸が野服から竜衣に着替えたので「インスハジジャー」がなまって「インサージャー」と呼ぶようになった。

しかし、地元（仲伊保）での伝説によると、金丸が仲伊保の海岸

まで逃げて来たのは『球陽』と同じであるが、金丸が海岸まで逃げて来て海に飛び込み、そこが浮上してできたのがインサージャーだといふ。

戦前まで旧三月三日（浜降り）になると首里から尚家一族がインサージャーに来て拝んでいた。このインサージャーは現在南西石油敷地のすぐ隣にある。パースのつけね附近のサンゴ礁の一角にある。かつてはそこには御香炉と碑があったといわれているが、いまではそれはない。干潮の時には歩いて渡ることができる。

移民

仲伊保部落での移民の先駆者は明治末期ごろハワイへ呼び寄せで行った安里三良氏と新川郁夫の父の二人である。

その後、ハワイへは新東小、後門小など五世帯が移民した。米国の移民制限法が施かれてからはペルーやブラジル、アルゼンチン、南洋等への移民が多くなった。

大正六年ごろ、当山樽金、当山松、奥浜ら四世帯がペルーへ移民した。また、昭和初期には大城兄

弟、大城亀、嘉手苧浦ら五世帯がブラジルへ渡った。同じころ、新川、安里昌徳、伊佐、諸見里安榮、謝名堂ら五世帯が南洋へ渡った。アルゼンチンへ移民したのは大城盛善、大城盛喜、大城善吉らであった。

ブラジルやペルーへの移民者には次男、三男らの分家が多かった。親や兄弟から「呼び寄せ」移民は昭和初期から本格的に始まった。仲伊保部落の戦前（昭和十年）の海外在留者数は二〇世帯（字の三分の二で、七〇八〇名ぐらいであった。家族への送金は南洋や大

阪からはあったが、ペルーやブラジルからの送金は少なかった。当時、西原村でブラジル移民が最も多いのは仲伊保部落であった。その他に十二世帯ほどが大坂や東京（川崎）などへ出稼ぎに出ていた。

門中

▼安里家
中城村より百年ほど前にここへ移ってきた。

▼嘉手苧家、玉那覇家、新川家
この三家とも小那覇から分家した次男、三男である。元家は小那覇にある。

▼新垣家、当山家、城間家
宜野湾村よりここへ移ってきた。

▼石原家
中城村字南上原からここへ移ってきた。屋号は山原石原という。

▼徳平家、屋宜家
ともに久米島からここへ移ってきた。

12区の概観図



栄養素から見た食生活

血液をつくる大切な成分——鉄

ミネラル（無機質）には、カルシウム、リン、鉄などがあります。このうち、鉄は血液をつくる大切な成分として、なくてはならないものです。

鉄は血液の中で酸素を運ぶ役目をするヘモグロビンの重要な成分です。ですから、この鉄の摂取がスムーズに行われないと、血液をつくるのに支障をきたし、貧血の原因になります。

貧血症状は、一般的に男性に比べて女性に多く見られます。厚生省の調査によりますと、成人女性（25歳～49歳）の5人に1人が貧血気味です。そして、約10人に1人（8～13%）は、明らかに貧血であると報告されています。

なかでも深刻なのは、妊婦および授乳婦で、妊娠前期では18%、妊娠後期では39%、授乳期でも23%が貧血という結果がでています。



女性の貧血は、本人だけでなく、妊娠・出産・授乳の過程で、胎児や乳児の成長にも大きな影響を及ぼすわけですから注意が必要です。

貧血の原因はいろいろ考えられますが、アンバランスな食事による栄養不足、とりわけ鉄の摂取不足による場合が多いようです。

鉄を多く含む食品としては、まず緑黄色野菜（ホウレンソウ、コマツナ）、魚肉、卵黄があげられます。

鉄の摂取量は、ふつう成人で1日当たり、男子が10mg、女子が12mgといわれています。鉄の不足で貧血にならないために、常に栄養のバランスに注意しましょう。

町議会だより

六月二十八日より二十九日にかけて二日間の会期で昭和五十八年第二回西原町議会定例会が開催された。

提出された案件は、議案二件、報告二件、承認二件、陳情一件であり、全ての案件は原案どおり可決され、陳情についても採択された。又四名の議員による一般質問も行われた。

※議案

昭和五十八年度西原町一般会計補正予算について（原案可決）
歳入歳出にそれぞれ三、二二八万五千円を増額し、同補正予算の総額を三五億七、三〇八万円とした。

昭和五十八年度西原町老人保健特別会計補正予算について（原案可決）
歳入歳出にそれぞれ五〇六万五千円を増額し、同補正予算の総額を三億六四二万七千円とした。

工事請負契約締結について（原案可決）
工事名、池田地区農地保全整備事業排水路及び農道工事。
契約金額 一億五〇〇万円。

※報告
昭和五十七年度西原町繰越明許費繰越計算書について（報告）
昭和五十七年度西原町事故繰越費繰越計算書について（報告）

※承認
専決処分承認を求めることについて（承認）

地方税法の一部改正に伴い西原町税条例の一部を改正した。
専決処分の承認を求めることについて（承認）
地方税法の一部改正に伴い西原町国民健康保険税条例の一部を改正した。

※陳情
西原町花卉生産組合に対する補助金交付に関する陳情について（採択）

町婦人主張大会

花城秀子さんが地区大会へ

町婦人会（大城静子会長）と町教育委員会の共催による婦人主張大会が、七月三日午後二時から中央公民館で関係者約五百十人が出席して行われ、五人の発表者が熱弁をふるった。発表時間は、一人十分以内で日頃婦人のかかえる問題並びに体験を訴えた。

審査の結果、安くておいしい公害のない自然食品（手作りのもの）の料理で健康で明るい家庭を築い

男子は泉、女子は新川が初優勝

町体協主催による第三回夏季テニス大会が七月十七日、南西石油テニスコートで行われ、総勢三十名の選手により熱戦が展開された。各種目の勝者は次の通り。

▼一般男子シングルス
優勝 泉 明光（7区）
準優勝 久高将清（5区）



スポーツ少年団野球大会

嘉手苧フ、坂田ハイッが優勝
野球を通して青少年の健全育成を図ろうと町スポーツ少年団（稲福勇本部長）主催の第二十三回スポーツ少年団野球大会が六月二十五日と二十六日、西原中学校グラウンドでAブロック九チーム、Bブロック十チームが参加して行われた。

珍プレー、好プレーが続出し、熱戦が展開されたが、対戦の結果、Aブロックは、嘉手苧フ、坂田ハイッが五・四で下し、Bブロックは坂田ハイッBが西原バックスを六・四で下しそれぞれ優勝した。



燃えるゴミは黒い袋に、燃えないゴミは青い袋に入れて出しましょう。

西原東ク男子が初優勝

全日本バレー 女子は準優勝 小学生県大会

第三回ライオンカップ全日本バレーボール(六人制)大会県大会(主催・読売新聞、OTVなど)が七月三日午前九時から沖縄市営体育館で開かれ、西原東クラブ男子(監督・宮里憲幸先生、西原東小児童)が決勝戦で宮城クラブを二〇のストレートで下し初優勝に輝いた。

西原東は、エース・アタッカー大城を中心に与那嶺勉哉、小川の攻撃陣と強力なサーブの活躍により順当に勝ち進んだ。準決勝では西原クラブ(西原小児童)と対戦し町内同志で接戦が展開され、二一で勝ったが、実質上の決勝戦にふさわしい試合であった。

また西原東クラブ女子も決勝戦まで勝ち進んだが、与那原クラブ

【男子】

△準決勝

西原東	2	15	11
西原	2	14	16
クラブ	2	15	9
△決勝			
西原東	2	15	7
宮城	2	15	5
クラブ	2	15	0

【女子】

に二〇で敗れ惜しくもアベック優勝はあと一歩であった。

西原東クラブ男子は、八月十五日から十八日までの四日間、東京で行われる全国大会に沖縄県代表として出場することになり、その活躍が期待されており、初のベスト四入りを目ざして練習と体の摂生に余念がない。

尚、対戦結果は次の通り。

町バスケットボール大会 男子10区、女子11区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の町(区対抗)バスケットボール大会が七月三日午前十時から西原中体育館(主会場)と西原東小体育館で行われ、男子十三チーム、女子七チームが参加して賑わった。

一回戦から熱戦が展開されたが、対戦の結果、男子は十区が六区を62-46で下し、女子は

△準決勝

西原東	2	15	11
糸満南	2	15	3
クラブ	2	15	0

△決勝

与那原	2	15	11
西原東	2	15	5
クラブ	2	15	0



男子決勝戦のもよう

十一区が八区を31-20で下しそれぞれ優勝に輝いた。男子決勝戦では、十区はポイントゲッター崎原(二十七点得点)を軸に伊集など活躍で六区のエース泉川の追撃をかわし勝った。女子決勝戦では、十一区のエース石原の活躍が目立

町バレーボール大会

男子六区、女子十五区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の町(区対抗)バレーボール大会が七月十七日午前十時から西原中体育館(主会場)と西原東小体育館で行われ、男子八チーム、女子七チームが参加して賑わった。

会場いっぱいにはハッパツとしたプレーが続いたが、熱戦の末、男子は六区が五区を二一で下し、女子は十五区が六区を二一〇で下しそれぞれ優勝した。

尚、決勝戦の結果は次の通り

【男子】

△決勝

六区	2	21	7
五区	2	21	14
クラブ	2	21	1

【女子】

△決勝

十五区	2	21	19
六区	2	21	17
クラブ	2	21	0

区対抗卓球大会

十区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の各区対抗卓球大会が七月三日午前九時から西原中体育館で五チームが参加してリーグ戦を行い、十区が去年の覇者七区を三二で下し優勝の栄冠に輝いた。

尚、決勝戦の結果は次の通り。

【男子】

十区	3	12
七区	2	12
我謝宗厚	1	12
不戦勝		
我謝知子	2	10
与儀・呉屋	2	10
花城裕次	0	12
呉屋和彦	2	10
崎原盛一	2	10
宮城靖		

県中体連代表で九州大会に

柔道二名、庭球二名が派遣

【西原中学校】県中学校のスポ

った。石原は、十三点を得点した。尚、対戦の結果は次の通り。

【男子】

△準決勝

十区	41	32
八区	72	40
六区	41	32
八区	72	40
六区	41	32

【女子】

△準決勝

十区	62	28
十四区	34	32
六区	46	6

11区の祭典、第十回夏季総合体育大会が七月二十三日、二十四日に行われたが、柔道と軟式庭球で西原中学校の代表選手が活躍し、八月に行われる中学校九州大会に四名が派遣されることとなった。柔道中量級で当間重竜選手(三年)が優勝、同重量級で与那城亮選手が準優勝、同団体戦三位、軟式庭球女子個人戦で新川藤乃選手(三年)、金城早苗選手(三年)が三位、同団体戦準優勝。

尚、九州大会に派遣される選手と種目は次の通り。

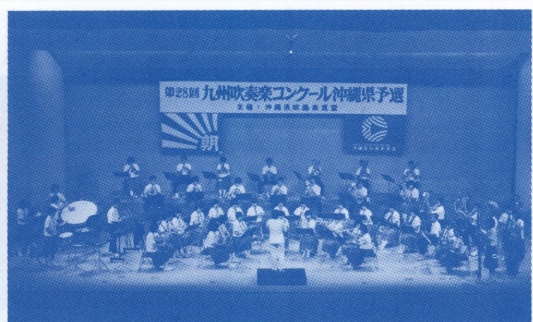
▼当間重竜(柔道中量級)、与那城亮(柔道重量級)、新川藤乃、金城早苗(軟式庭球)

西中、二年連続

金賞に輝く

九州吹奏楽コンクール県予選第二十八回九州吹奏楽コンクール沖縄県予選(沖縄県吹奏楽連盟主催)が七月十七日に那覇市民会館で開かれ、本町の西原中学校吹奏楽部(指導・照屋繁子教諭)が、奏楽部(指導・照屋繁子教諭)が、昨年(一九五七年)に続き二年連続金賞に輝いた。

ヴェルディ作曲の歌劇「シシリア島の夕べの祈り」序曲を演奏。西原中は、九州大会への県代表にはなれなかったが、迫力に満ち



金賞に輝いた西原中学校吹奏楽部、指揮・照屋繁子教諭。

香典返し

このほど、次の方々から香典返しがありました。

◎屋宜宣太郎さん(字・与那城八三番地)から故祖母・ウサさんの香典返しとして西原小学校へ十万円。

◎宮平善市さん(字・我謝六七三番地)から故祖母・ウサさんの香典返しとして町社協へ十万円。

七月二十二日から三二〇キロを超えるダイヤル通話が昼間三分間四百円に

電電公社は、五十七年度、収入と支出の差額三、七〇〇億円を計上できる見込です。

このような財務状況を基盤として、五五年、五六年に続き三回目の値下げを行うとともにサービス充実の充実改善のためのさまざまな施策を実施しております。

電電公社は、これからもご利用

3分間のダイヤル通話料(320Kmを超える通話)

時間帯	午前			午後		
	0時	6時	8時	7時	9時	12時
曜日						
月曜～土曜	220円	240円	400円	240円	220円	
日曜・祝日	220円		240円			220円

青年隊員募集要項

- 一、募集人員 六十名
 - 二、応募資格 (1)義務教育を修了した満二十五年未満の独身男子 (2)心身健全で共同生活を守りうる者
 - 三、訓練期間 昭和五十八年十月四日～五十九年三月二十二日
 - 四、申込先 東村字平良三八〇の一番地、社団法人沖縄産業開発青年協会宛
 - 五、出願書類 ①志願書一通②健康診断書③市町村長か市町村青年会長又は出身学校長の推薦書一通
 - 六、募集期間 七月十五日～八月三十一日
- 尚、詳しいことは、沖縄産業開発青年協会(電話〇九八〇四三二一～一八)または町役場産業課(電話五五〇一一)官平までお問い合わせ下さい。

急いでも、きちんと見ます、みぎ ひだり